

キャッシュ・フロー計算書 (C/F : Cash Flow statement) の解説

○『キャッシュ・フロー計算書』とは・・・？

1事業年度の資金収支の状況を、一定の活動区分別に表示した報告書です。

○『キャッシュ・フロー計算書』から分かることは・・・？

貸借対照表や損益計算書では、把握しにくい1事業年度(4/1~3/31)における現金預金の流れを、「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の3つに区分して表示することで、資金繰りの状況を明らかにし、経営の健全性や経営悪化などの判断が可能となるものです。

○『キャッシュ・フロー計算書』の読み方

葉山町下水道事業は、この分類に該当しています。

業務活動	投資活動	財務活動	経営状況(例)
			現在成功している会社 経常的な企業活動で生み出した資金を、健全に投資活動と財務活動に使っている。
+	+	+	資金は潤沢な会社 資金の使途が明確となっていない。戦略的な投資・買収に備えていることも考えられる。
	-	+	拡大指向の成長会社 本業務も順調であるが、財務活動により資金を調達し、積極投資を行っている。
	+	-	リストラ実施中の会社 借入金返済を優先し、将来的な投資活動を行っていない。
-	-	+	設立後間もない成長会社 借入・増資等による調達資金により、投資を行っている。
	+	+	資金不足を補っている会社 資金繰りがひっ迫しているため、資産の売却、増資等を行っている。
	+	-	本業不振の会社 保有資産の切り売りによって借入金の返済を行っている。
	-	-	倒産の危険性のある会社 過去からの剰余金等で、なんとか生き残っている。

令和3年度 葉山町下水道事業会計 キャッシュ・フロー計算書(間接法)

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位 円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	169,931,636
固定資産減価償却費	648,619,241
固定資産除却費	247,119
長期前受金戻入額	△334,028,502
引当金の増減額(△は減少)	△1,978,129
受取利息及び配当金	△3,359
支払利息	108,960,577
未収金の増減額(△は増加)	△3,647,524
未払金の増減額(△は減少)	△143,230,578
小計	444,870,481
受取利息及び配当金	3,359
利息の支払額	△108,960,577
業務活動によるキャッシュ・フロー	335,913,263

業務活動によるキャッシュ・フロー

外部からの資金調達に頼ることなく、どのくらいの資金を本来の業務活動で獲得したかを表したもので、主に収益的収支(3条予算)の内容を表します。

→ + (プラス) であることから、業務活動が良好であることが分かります。

2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△494,058,812
国庫補助金による収入	168,636,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	△325,422,449

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得など、将来の利益及び資金獲得のための設備投資にどのくらいの資金を支出したか、また、その資金をどのくらい回収したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。

→ △ (マイナス) であることから、積極的に投資を行っていることが分かります。

3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債による収入	307,000,000
企業債の償還による支出	△572,285,561
他会計からの出資による収入	120,000,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△145,285,561

財務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動や投資活動を維持するために、どのくらいの資金を調達し、また、返済したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。

→ △ (マイナス) であることから、借入残高が減少していることが分かります。

資金増加額(又は減少額)	△134,794,747
資金期首残高	359,157,605
資金期末残高	224,362,858

←貸借対照表(B/S)
現金預金と一致